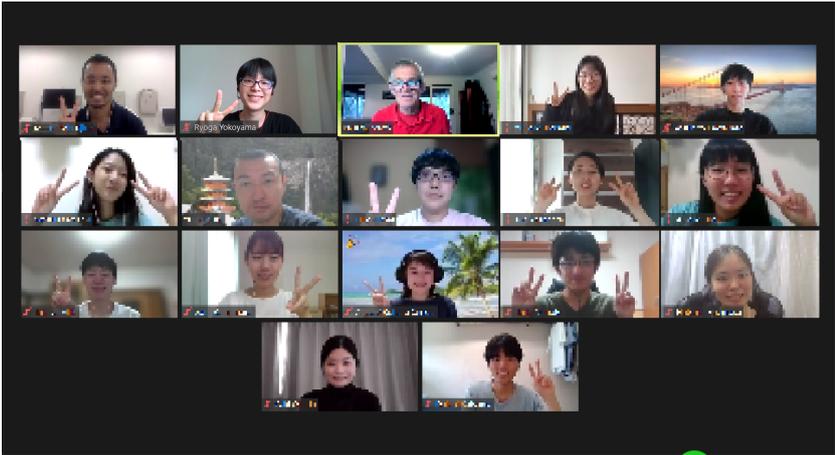


## 羽ばたけ! TUT2021 報告書概要

1 系 M 2 年 氏名 横山 遼河

参加プログラム名	Global Communication for Future Leaders Program
研修期間	2021 年 8 月 16 日 (月) ~ 2021 年 9 月 3 日 (金)
研修先機関名・ 所在国	Monash College, Australia ( <a href="https://www.monashcollege.edu.au/">https://www.monashcollege.edu.au/</a> )
<b>研修の概要</b> (研修テーマや課題、目標・目的や主な研修活動内容、研修で達成したこと等を簡潔にまとめて書いてください。)	<p>本研修は、Monash College のバーチャル教室を用いた 3 週間のオンライン学習プログラムである。研修テーマはその名にある通り、グローバルリーダーの育成、将来のキャリア形成のサポートである。参加学生は、研修前に自身の英語能力に応じた 2 つのレベルのいずれかに割り当てられ、それぞれのレベルで異なるトピックを扱った授業が実施される。授業ではニュースや文献などを用いてのリーディングとリスニング、各トピックに因んだグループディスカッションやプレゼンテーションの実施が主である。</p> <p>本研修へ参加した目的は、1) ディスカッションなどの建設的な会話におけるコミュニケーション能力の上達、2) 英語能力の現状と課題の認識、3) 海外での今日の課題の捉え方を学ぶことである。研修では、月～水曜日にグローバルなトピックを、木・金曜日にキャリア形成やビジネスをテーマにした授業が実施された。いずれの授業においても、少人数でのグループワークやディスカッションの機会が設けられており、ディスカッション後には学生同士でのフィードバックも実施されるため、相互学習的な授業であった。さらに、授業外に多数のアクティビティが用意されており、学生と交流できる機会が充実していた。</p> <p>本研修を経て、世界を取り巻く課題の現状や取組みを学び、これからの世界に益々興味を持つことができた。また、英語能力に関しては向上を実感でき、特にディスカッションやチームワークにおいて有意義な経験となった。一方で、自身の課題も認識できたため、今後の取り組みで改善に励む所存である。</p>
<b>活動写真 1 枚</b> (修了証の写真でも可)	 <p>図 Zoom を用いた授業の風景</p>

# 羽ばたけ! TUT2021 報告書

## 研修内容

### 1 参加の目的や動機

昨今、日本においてグローバル人材の育成が活発である。これは国内市場の縮小や企業の海外事業展開などを背景に、国内のみならず世界を舞台に活躍する人物が今後の日本発展に不可欠であることが考えられる。実際に私は就職活動の中で、数多くの企業が世界に目を向けていること、将来海外でも活躍のできる人物を求めていることを実感した。そして、自身の将来のためにグローバル人材としての素養が必要であると考え、その根幹となる英語学習により注力したいと考えようになった。

その中で「羽ばたけ!TUT」の募集があり、特に本プログラムに興味を抱いた。本研修のテーマは、「グローバルリーダーの育成」、「将来のキャリア形成のサポート」であり、まさしく今の私に最適な内容であると感じた。また、数々のアクティビティを通じて、オーストラリアの学生と交流できることから、グローバル人材において必要となる多様性や異文化理解の助けになると考えた。

これらの理由から私は本研修への参加を志望し、以下の目的を設定した。

- 1) ディスカッションなど、建設的な会話に必要なコミュニケーション能力の上達
- 2) 英語を用いたコミュニケーションにおける自身の現状と課題の認識
- 3) 海外における今日の課題の捉え方や取り組みの理解

### 2 研修内容

本研修は、1 章でも記したように「将来のキャリア形成のサポート」をテーマとした、Monash College の学習プログラムである。授業はバーチャル教室を用いた完全オンラインで実施され、3 週間の期間となっている。研修に参加する学生は、事前に教師からインタビューを受け、自身の英語能力に応じて「Intermediate」あるいは「Advanced」いずれかのレベルに割り当てられる。それぞれのレベルで扱う内容は異なっており、Intermediate では文化やキャリアをトピックに、英語スキルの向上を目的としている。また、Advanced では環境問題やメディアなど、実用的な知識が必要とされるトピックについて学習する。私は、Advanced レベルの研修に参加したため。以降の内容は Advanced に関する内容が主であることを予め記述しておく。

また、参加学生は研修前にそれぞれ Monash アカウント与えられ、メールの送受信や Google Drive、Moodle での教材および課題の確認が可能となる。

#### 2.1 授業

##### 2.1.1 概要

本研修での授業は、1 クラス 15 人程度で構成され、週ごとにクラス替えが行われる。月～水曜日はグローバルなトピックについて、木・金曜日はキャリア形成やビジネスをトピックにした授業が実施された。なお、月～水曜日と木・金曜日で授業を担当する教師が替わるため、進行具合などは異なるがある。主な授業の流れとしては、Google Drive 上の Google Docs に沿って進行し、ニュース記事や文献を用いたリーディングやリスニング、重要となる単語の学習や英文作成、そして各トピックの仕上げとして、トピックにまつわるグループディスカッションやプレゼンテーションが実施される。

また、ディスカッションなどの後は学生同士でのフィードバックが実施された。いずれにおいても、Zoom のブレイクアウトルームが活用され、少人数で協力して課題に取り組み、その後解答や意見を全体に共有するという形であった。単独で取り組むものは比較的少なく、頻繁にコミュニケーションをとりながらの授業となっていた、なお、授業時間は日本時間で 9:30-14:30 (11:30-12:30 : 昼休憩) である。

##### 2.1.2 内容

以下にそれぞれの週および曜日における授業の内容などについて記す。

#### 1st week: Sustainable Development

月: Sustainable fashion

始めに自己紹介を行った。その後、服飾に関してグループワークやテキストを通じて現状や問題を理解した。リーディングでの、事実と著者の主張との判別や要点を探る方法を学習した。

火: Sustainable development

世界の深刻な環境問題について例を用いて学習した。テキストの読解および要約を行なった後、グループディスカッションにおいて重要な「Active Listening」について学習した。

水: Sustainable Development Goals

服飾についてのグループディスカッションを行った。また、個人の主張や用いた重要単語などについて各グループに向けてフィードバックを行った。その後、SDGsについてリスニングを主にして学習した。

木: The new working norm

最初にアイスブレイクのため、自身についての英文を書いた後に内容の説明を行った。その後、オンライン授業の利点や欠点、対面授業との比較をグループで行った。また、リモートワークが活発な今日における、懸念点や意識すべきことを学び、ロールプレイを行った。

金: Online meetings

オンラインミーティングにおける注意点および効果的に実施する方法などについて、リスニングおよびリーディングを通じて学習した。

## 2nd week: Environmental Crisis

月: The Human Age

深刻な環境破壊に関する内容をテキストから学習した。特に、リーディングにおいて要点を掴むためのスキミングに焦点が当てられていた。

火: Species Extinction

絶滅の危険性がある生物、特にミツバチに注目した内容をリスニングを通じて学習し、効果的なメモの方法について理解した。その後、グループディスカッションの準備を行った。

水: Renewable Energy

生物多様性に関するグループディスカッションの後、各グループへのフィードバックを行った。その後、種々の再生可能エネルギーの利点や欠点について主にリスニングに注力して学習した。

木: Successful teamwork 1

アイスブレイクとして、チームワークに関する自身の経験の作文と説明を行った。その後、効果的なチームワークやチームのあり方について、クイズや文献などを通して学習した。また、課題にスライド作成が課され、自身のチームワーク経験をプレゼンテーションすることになった。

金: Successful teamwork 2

前日の内容の振り返りを行った後、クイズや課題を通して効果的なチームワークが及ぼす影響について改めて学習した。その後、課題で作成したスライドを用いてプレゼンテーションを行い、フィードバックをグループで互いに行った。

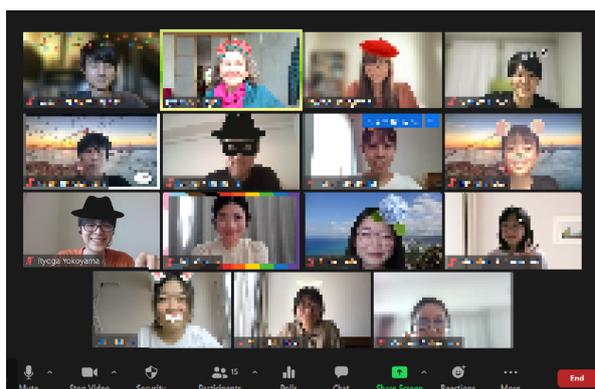


図1 授業風景(左)およびプレゼンテーションで使用したスライド(右)

## 3rd week: Media & Communication

月: 21st Century News

アイスブレイクのためグループで会話した後、メディアやニュースについて意見交換を行った。その後、フェイクニュースやメディアリテラシーについてテキストを通じて学習した。

火: Digital technology 1

最初にグループの中でルームツアーを行った。その後、フェイクニュースなどに関するグループ

ディスカッションを行った。その際、ディスカッションにおいて意見の表現に効果的である「Signposting Language」について説明を受けた。その後、デジタル機器の利用における利点と欠点についてリスニングを通じて学習した。

水: Digital technology 2

教師の方の自己紹介と質問の後、スクリーンタイムの及ぼす影響について、記事や資料を用いて意見交換を行った。その後、リスニングを通じて内容の要約と学習を行った。

木: Advertising strategies 1

最近の購入品についての説明を行った後、リーディングに有効な「SQ4R」について学習した。その後、広告の効果や着目すべき要素について文献を通じて学習した。その後、グループで広告にまつわるプレゼンテーションの準備を行った。

金: Advertising strategies 2

前回の振り返りを行った後、各グループに割り当てられた広告について、その広告の狙いや効果についてディスカッションを行った。その後、スライドを用いてプレゼンテーションを行った。午後は、「End of Course Party」と称した会が催された。研修の参加学生と教師たちが一箇所に集まり、オンラインRPGのように自由にフィールドを歩き回り、研修で撮影した写真の閲覧や掲示板への投稿、会話を楽しむことができた。

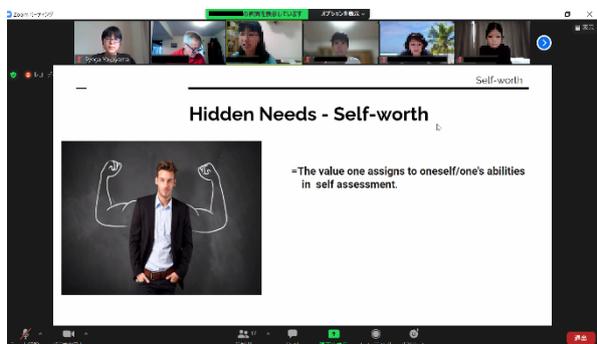


図2 グループでのプレゼンテーション



図3 End of Course Party

## 2.2 アクティビティ

本研修では、授業外にも多数のアクティビティが用意されており、本研修の参加学生のみならず Monash College に在籍する学生と交流ができる機会が充実していた。以下に、今回実施されていたアクティビティの一例を記す。

- Communication through Music  
音楽を通じての英語学習
- Australiana  
オーストラリアの文化などを学ぶ
- Perfect Pronunciation  
英語の発音ルールの学習と練習
- Japanese cub  
Monash College で日本文化などについて勉強している学生との交流

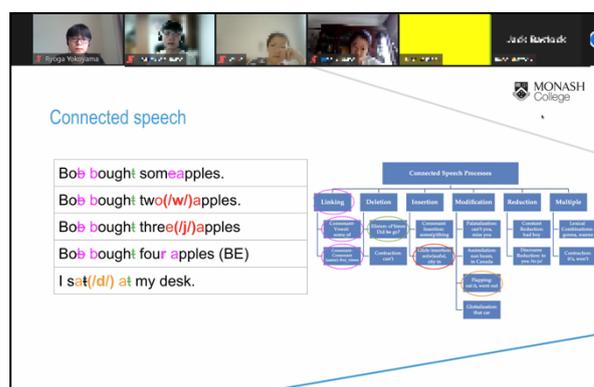


図4 Perfect Pronunciation

また、私は別途募集があったプログラム、OCP(Online Conversation Partner)Program への応募の末、採択されたため、現在 Monash College の学生と交流を行っている。(2021年9月3日時点)本プログラムは、週1回程度 Monash College で日本語を学んでいる学生と交流を行うものである。内容については特に指定されておらず、近況やお互いの興味のあることについて、英語および日本語で自由に会話ができる。お互いの意見交換や文化交流および英語学習を楽しむことのできるプログラムであるが、参加できる人数に制限が設けられているため、もし興味があるのであれば、早期に応募

することをお勧めする。

### 3 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点

#### 3.1 研修の成果、研修で獲得したもの

本研修を経て、英語能力の向上を実感でき、特にディスカッションやチームワークにおいて有意義な経験ができた。一方で、自身の現状や克服すべき点も分かり、今後の課題として励む所存である。また、出身地や学科、学年の異なる学生と一緒に研修に参加したため、自身の知らない経験や知識にも触れることができ新鮮であった。さらには、世界的な課題や取組みを学ぶことができたため、世界の出来事や将来により興味を抱いた。

#### 3.2 当初設定した行動目標の達成度、問題点

私は、以下 2 つの行動目標を研修応募時に設定し、研修に臨んだ。

##### 行動目標

- 1) 新規学習した語彙や英語表現を当日中に使用する
- 2) 授業外アクティビティへの参加と学生との積極的な交流

1)については、「達成できた」とする。これは、授業内で意見の主張やディスカッションの機会が多く設けられていたためである。特に、授業で扱うトピックについて実用的な知識が求められるため、目標達成の後押しとなったと感じている。一方で、さらなる能力向上のために、表現の多様化やディスカッションにおける具体例の詳細な提示などに努めたい。

2)については、「概ね達成できた」とする。これは、予定が許す限りアクティビティの参加に努めたためである。Japanese club や Perfect Pronunciation、さらに OCP への参加を経て学生と交流することができた。一方で、他にも魅力的なアクティビティが多数開催されていたため、それら全てに参加できなかったことが少し悔やまれる。

### 4 今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

#### 4.1 当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

まず、「研修後に実践する行動目標」として設定した 2 つの目標を以下に記す。

##### 研修後に実践する行動目標

- 1) 国際交流に関するイベントなどへの参加(コミュニティへの所属など)
- 2) 英会話や英語本・ニュースなどによる毎日のインプットとアウトプット

1)については、本学で開催される種々の国際交流イベントが例として挙げられる。これらの機会を積極的に活用するとともに、本研修を経て Japanese club や OCP プログラムへの参加も可能となった。そのため、特に見直しは必要ないとする。

2)について、インプットについては、以前より活用していた YouTube の英語に関するチャンネルや本授業で利用した Ted ed を新たな題材に、今後も継続していくつもりである。一方、アウトプットについては、次節でも述べるが、定期的にアウトプットのできる環境を設けることが課題として挙げられる。環境の一例としては、本学の英語学習アドバイザーやオンライン英会話が考えられるため、それらのサービスを検討したい。

#### 4.1 今後の目標、課題

3 章および 4.1 節の内容も踏まえた今後の目標としては、会話における「自身の表現の多様化」と「英語での交流機会の確保」が挙げられる。これは、本研修で学習した知識や表現を自身のものとし、さらに発展させるために継続的な英語学習、特に、相手との会話や意見交換などコミュニケーションに焦点を当てたいと考えたためである。まずは、英語のインプットを継続しつつ、学習環境の確保に努めたい。

### 5 その他感想など

本研修を経て、コミュニケーションにおける自身の英語能力の現状および課題などを認識することができた。同時に、授業の内容に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどの実施によって、新たな学びと自身の成長を実感できた。さらに、本授業で扱ったトピックは、種々の環境問題や SDGs など自身が以前より興味を持っていたものが多く、これからを生き、将来を考える必要のある私たちにとって大変有意義な経験ができたと感じている。今日の世界状況や課題などの詳細を

知り、それらについて様々なバックグラウンドを持つ学生と意見交換ができたことを嬉しく思う。そして、本研修のテーマである「将来のキャリア形成のサポート」という面でも、これからの働き方やチームとして働く意義などをグループディスカッションおよびグループワークで理解できた。

授業外においても、各種アクティビティに参加をすることで、充実した日々を送ることができた。実際に、授業がない土曜・日曜日において、英語を話さないことに違和感や物足りなさを覚えたほどであった。それほどまでに、本研修は貴重な経験をすることができたと実感している。

今後は、英語学習を継続することで、コミュニケーション能力の向上に努めたい。そして、将来は専門分野や国籍、文化など様々なバックグラウンドを持つ世界の人々と多く関わり、まさしくグローバルに活躍のできる人物になりたいと思う。そのために、英語だけではなく世界の課題についてより一層興味を持って生活していきたい。

最後に、本研修へ参加するきっかけとなった本学の「羽ばたけ!TUT」関係者の方々、研修参加にあたり、手厚いサポートを賜りました辻本様をはじめとする Monash College 日本支部の方々、3 週間に渡り、私たちに授業をしていただいた Mr. Jack をはじめとする Monash College の教師の方々、そして共に学び、手助けいただいたクラスメイトに厚く御礼を申し上げる。

以上